

先日行われた保護者球技会には多くのご参加をいただきました。スポーツを通して保護者同士が交流できること、一つのボールを追いかけてながら気持ちを通わせ、声をかけ合うことができることがよいことだと思います。何より嬉しいのは、参加していただいた保護者の皆さんのたくさんの笑顔に出会えたことです。子どもたちも真剣にプレーしているお父さん、お母さんの姿を見ていましたし、大きな声で応援する子たちもいました。保護者と子どもと一緒に笑顔になれる場であることを嬉しく思い、このようなところから生まれる関係が学校の大きな力になってくれていると考えています。

## 【通学路で】

大きな中高生の間にその姿が見え隠れする小学生がいます。ゆっくり歩く小学生が2・3人横に並んでしまうと、その子たちを先頭にして長い列ができてしまいます。その列にいる中高生は小学生のことをどう思うでしょう。そういう様子がときどき見られるのが朝の通学路なのです。(下校時の通学路は走って駅に向かおうとする子どもたちがいて困っています。)まわりの様子に気づくことができない子どもたちには個別に声をかけるようにしていますが、声をかけられる前に自分で気づくことができないのが少し残念です。中高生も「少し早く歩いて!」と言いたいのですが、小学生に対する声かけを躊躇うこともあるようです。

これは一つの例なのですが、通学路を自分のペースで歩いていてそれがまわりの迷惑になっているかどうかを考える力、自分への気づきというような力を求めることは難しいのでしょうか。学校でも、最近階段や廊下での右側通行を促すポスターが掲示されています。また、階段には矢印のシールも貼ってあります。一定のルールを示すことで、子どもたちの中に譲り合う気持ちと気づく力が育ってくれたらと願います。

自分に気づくことは大人でも難しいことです。でも、そういう自分になれるように努力しなければならないでしょうし、もし、他の方からの指摘や注意があればそれを素直に受け入れることが大切でしょう。電車の中や通学路でマナーの上でまだいろいろな問題がありますが、もしも注意をされたり声をかけられたりしたら、それを素直に聞き入れるようにしなければなりません。

## 【あこがれ】

インターネットやテレビなどの影響かもしれませんが、私たちは多くの人たちが身近にいてくれるように錯覚してしまうことがあります。総理大臣の顔をいつもテレビで見ているとあたかも自分の知り合いでもあるかのように。まあ、これは大袈裟な例えですが、芸能人や文化人が画面を通して自分の近くに感じられるようになっていくことは事実でしょう。

少し前は、そういう人たちは自分の夢として描く姿であったり、あこがれであったりしました。そして、自分に何かを教えてくれるのは、兄弟、親、友だち、先生などの比較的近くにいる人たちであったように思います。ですから、自然にそういう人たちの中から目標とする人を見つけることができました。また、何か困ったことがあったり、壁にぶつかったりしたときに、すぐに相談したり、話を聞いてもらうこともできました。

今は、身近なところにいる人から自分の目標となるべき人を見つけることができず、結果的に孤独な子どもたちが増えているような気がします。

ある日の講習で、課題が早く終わった子がいました。算数が得意な子なのでしょう。そうしたら、まわりから「早いな」という驚きの声があがりました。そこまではよかったのですが、次に出てきた声は、課題が早く終わった子を素直に受け入れないようなものだったのです。人それぞれ得意なこともあればそうでないこともあります。算数の課題を早く正確にできる子がいたら、その子のよさの一つであることを認めて、自分もがんばって行こうという気持ちになれないものかと思いました。自分と大きく異なることを「あの子はおかしい」というような受け止め方をして受け入れようとしたくない気持ちになることについてとても残念に思いました。仲間のよいところを認め受け入れる。お互いのよいところを受け入れる。こういう雰囲気が醸し出されるような学校は子どもたち一人ひとりのレベルが向上すると同時に、楽しい学校になっていくのだと思います。

## 【送迎時の車利用について】

10月中旬のことですが、県内公立小学校の校門前で児童を迎えに来ていた保護者運転の自動車に、授業で写生中の児童がひかれて亡くなるという大変いたましい事故が発生し、新聞等でも大きく報じられました。

神奈川県警察本部からも、車両による幼児・児童の送迎を行っている施設では、教職員、保護者、バス運転手等に同様の事故が再び起きないように注意喚起をすることと、安全対策の見直しの検討についての依頼がありました。

桐光学園小学校では、自家用車による児童の送迎については特別な事情があるときは学校前の駐車場を利用することと、道路の横断の際も保護者に安全確認をお願いしています。また、スクールバスが出入りする際には細心の注意をしているところです。これからも緊張感を持って児童の安全確保について意識を高めていかなければなりません。